

## 「北九州市障害者計画」の基本的な施策の実施状況

分野6. 文化芸術活動・スポーツ等の振興				
分野目標	全ての障害のある人の芸術及び文化活動への参加を通じて、障害のある人の生活を豊かにするとともに、市民の障害への理解と認識を深め、障害のある人の自立と社会参加の促進に寄与します。 また、レクリエーション活動等を通じて、障害のある人等の体力の増強や交流、余暇の充実等を図るとともに、障害者スポーツの一層の普及に努めます。			
番号	基本的な施策			所管課
(1) 芸術文化活動、余暇・レクリエーション活動の充実に向けた社会環境の整備				
障害のある人が地域社会へ一歩踏み出し、社会の一員として自立するために、文化活動、レクリエーションをさらに振興できる環境の整備を進めます。				
6-(1)-1	芸術文化活動を行う環境づくり			
	障害のある人が、芸術文化活動に親しむことができる環境整備を進めるとともに、障害のある人のニーズに応じた芸術文化活動に関する人材の養成、相談体制の整備、関係者のネットワークづくり等の取り組みを行い、障害の有無にかかわらず、芸術文化活動を行うことのできる環境づくりに取り組みます。 特に、障害のある人の芸術文化活動に対する支援や、障害のある人の優れた芸術作品の展示等の推進を図ります。			
令和5年度 実施状況	<p>○障害のある人の芸術・文化活動を推進するため、障害者福祉会館等における芸術・文化に関する講座の開催や、共催・後援を行う芸術・文化活動に関する情報提供などの支援を行いました。</p> <p>○障害のある人の芸術作品を随時展示する場所の提供に努めました。 ・市役所かがきアートギャラリー作品展示 通年(月ごとにテーマを変えて、作品入れ替え)</p>	現状の課題・ 今後の見通し	○引き続き、より多くの方が障害者芸術・文化活動に関心を持ってもらえるよう、裾野を広げる取り組みを行います。	障害福祉 企画課
6-(1)-2	北九州市障害者芸術祭の開催			
	全ての障害のある人の芸術及び文化活動への参加を通じて障害のある人の生活を豊かにするとともに、市民の障害への理解と認識を深め、障害のある人の自立と社会参加の促進に寄与するため、北九州市障害者芸術祭を開催し、障害のある人の芸術文化活動の普及を図ります。			
令和5年度 実施状況	<p>○障害のある人の芸術・文化活動の普及を図るため、活動の成果を発表する機会である「北九州市障害者芸術祭」を継続して開催しました。 ・北九州市障害者芸術祭 令和5年11月21日～11月26日(作品展) 令和5年11月19日(ステージイベント)</p>	現状の課題・ 今後の見通し	○引き続き、より多くの方が障害者芸術・文化活動に関心を持ってもらえるよう、障害者芸術祭を継続して開催します。	障害福祉 企画課
6-(1)-3	芸術文化活動等に関する取り組みの支援			
	障害者福祉会館等で開催している各種講座の充実を図るとともに、関係団体等と連携しながら、芸術文化活動の場や成果発表の機会の確保に努めます。 また、民間団体等が行う芸術文化活動等に関する取り組みを支援します。			
令和5年度 実施状況	<p>○在宅の障害のある人の自立の援助や生きがいを高めることを目的として、東部及び西部障害者福祉会館において、料理教室や文化活動、創作活動、及び社会適応訓練などの講習会を行いました。 ・障害者学習活動支援 会館講座開催数 ・東部会館 33回実施 延べ313人 ・西部会館 49回実施 延べ454人</p>	現状の課題・ 今後の見通し	○アンケートを実施し、利用者のニーズの把握に努めています。会館での講座のノウハウを市民センターなどの地域へ提供し、障害のある人の地域における活動促進を図るための取り組みを行います。	障害福祉 企画課

## 「北九州市障害者計画」の基本的な施策の実施状況

番号	基本的な施策			所管課
6-(1)-4	障害のある子どもが芸術文化に触れ親しむ取り組み			
	障害のある子どもに、広く芸術文化に触れ親しむことができるよう、一流の芸術文化活動団体等による実演芸術の鑑賞・体験等の機会を提供することで、障害のある子どもの生きがいや生活の質の向上を図ります。 また、このような取り組みに対する教職員や保護者の理解を一層推進するために、学校や家庭等への情報発信の充実に努めます。			
令和5年度 実施状況	○市内の特別支援学校等で出張コンサートを開催し、障害児等を対象に、生の音楽を鑑賞し、音楽と触れ合う機会を提供しました。 ・ふれあいコンサート 7箇所(回)	現状の課題・ 今後の見通し	○障害のある子どもの生きがいや生活の質の向上を図るために、引き続き本事業を実施していく。	都市ブランド創造局 文化企画課
	○伝統文化や異年齢・地域交流など豊かな体験を通して、児童生徒が自己の生き方についての考えを深める道徳教育を教育活動全般を通じて推進しました。 ・全小・中・特別支援学校及び幼稚園	現状の課題・ 今後の見通し	○今後も、伝統文化や異年齢・地域交流など豊かな体験を通して児童生徒が自己の生き方についての考えを深める道徳教育を教育活動全般を通じて推進していきます。 ○市民の協力を踏まえた教材・教具・作品づくりと、製品販売会や合同作品展等、特別支援学校や特別支援学級の活動について積極的に広報を行っていきます。	教育委員会 学校教育課、特別支援教育課
6-(1)-5	社会参加活動を行うための環境の整備			
	レクリエーション活動等を通じて、障害のある人等の体力増強、交流、余暇等に資するため、各種レクリエーション教室や大会・運動会等を開催し、障害のある人等が地域社会における様々な活動に参加するための環境の整備や必要な支援を行います。			
令和5年度 実施状況	○身体障害のある人がお互いの連携を深めるため、自立意欲の増進を図る団体等の活動に対して、北九州市身体障害者福祉協会を通じて助成を行いました。	現状の課題・ 今後の見通し	○助成金の交付による事業の効果を検証する必要があります。	障害福祉 企画課
(2) スポーツに親しめる社会環境の整備				
障害のある人の健康を増進し、体力の向上と社会参加意欲を高めるために、スポーツに親しめる社会環境の整備を推進します。				
6-(2)-1	障害者スポーツへの様々なニーズに対応できる取り組み			
	障害者スポーツは、リハビリテーションの手段としてはもとより、健康を増進し、社会参加意欲を高め、ひいては、障害や障害のある人に対する市民の理解を深めるものであり、今後も障害者スポーツへの様々なニーズに対応できるよう取り組みを推進します。			
令和5年度 実施状況	○障害のある人のスポーツ活動を支援するために、障害者スポーツに関する情報収集・情報提供や、障害者スポーツ団体の活動支援を行いました。	現状の課題・ 今後の見通し	○引き続き、スポーツを通じて障害のある人の体力の維持・向上や、機能回復等を図るとともに、社会参加の促進に取り組みます。	障害福祉 企画課

## 「北九州市障害者計画」の基本的な施策の実施状況

番号	基本的な施策			所管課
6-(2)-2	スポーツに親しめる環境づくり			
	<p>障害のある人のスポーツの拠点である北九州市障害者スポーツセンター・アレアスの適切な運営を図るとともに、障害のある人が地域においてスポーツに親しむことができる環境整備を進めます。</p> <p>また、障害のある人のニーズに応じたスポーツに関する人材の養成及び活用の推進等の取り組みを行い、障害の有無にかかわらず、スポーツを楽しめる環境づくりに取り組みます。</p>			
令和5年度 実施状況	<p>○障害のある人の健康を増進し、体力の向上、社会参加意欲を高める障害者スポーツの拠点として様々なニーズに対応した取り組みを進めました。</p> <p>・北九州市障害者スポーツセンターの運営 令和5年度利用者 125,195人</p>	現状の課題・ 今後の見通し	○事業の継続実施のため、計画的に施設設備のメンテナンスを行う必要があります。	障害福祉 企画課
	○子どもから高齢者まで、障害のある人もない人も、あらゆる世代の誰もが気軽に、安全・安心にスポーツ施設を利用できるよう、ユニバーサルデザイン化を進めました。	現状の課題・ 今後の見通し	○スポーツ施設は多種多様な施設であり、今後も継続的に取り組む必要があります。	都市ブランド 創造局ス ポーツ振 興課
6-(2)-3	障害者スポーツ大会等の開催			
	障害者スポーツ大会の開催を通じて、障害者スポーツの普及を図るとともに、民間団体等が行うスポーツ等に関する取り組みを支援します。			
令和5年度 実施状況	<p>○北九州市障害者スポーツ大会、全国障害者スポーツ大会への北九州市選手団の派遣を行いました。また、各種スポーツ大会の開催や選手派遣への補助、巡回スポーツ・水泳教室などを行いました。</p> <p>・北九州市障害者スポーツ大会 令和5年度参加者247人</p> <p>・全国障害者スポーツ大会への北九州市選手団の派遣 (鹿児島県：10月28日～30日)</p> <p>・巡回スポーツ教室の開催箇所数 17箇所</p>	現状の課題・ 今後の見通し	<p>○スポーツ大会の開催については、関係団体と連携を図り、広くPRする必要があります。スポーツを通じた社会参加を促進するため、更なる参加者数の拡大に努めます。</p> <p>○スポーツ教室の開催については、より参加者のニーズに合ったものとする必要があります。スポーツを通じた社会参加を促進するため、実施箇所数の拡大に努めます。</p>	障害福祉 企画課
6-(2)-4	「ふうせんバレーボール」の普及			
	障害の有無や程度、年齢、性別にかかわらず、誰もが一緒に競技することのできる北九州市発祥の「ふうせんバレーボール」のさらなる普及・振興を図ります。			
令和5年度 実施状況	○未来の社会を担う子どもたちが障害に対する理解を深め、支え合いの精神を養うことを目的として、市内の小学生で構成されたチームによる「小学生ふうせんバレーボール大会」は28チーム、児童数218人の参加がありました。	現状の課題・ 今後の見通し	○より効果的な普及促進を検討します。また効率的な実施を図っていきます。	障害福祉 企画課
6-(2)-5	北九州チャンピオンズカップ国際車椅子バスケットボール大会の開催			
	北九州チャンピオンズカップ国際車椅子バスケットボール大会を引き続き開催するとともに、障害者団体等が行っている障害者スポーツを通じた国際協力の取り組みについて広く市民に周知し、障害の理解や国際交流を促進します。			
令和5年度 実施状況	<p>○海外(イギリス、韓国)及び日本の招待チームによる「北九州チャンピオンズカップ国際車いすバスケットボール大会」及び、国内のブロック選抜チームによる「全日本ブロック選抜車いすバスケットボール選手権大会」、市内の小学生による「北九州市小学生車いすバスケットボール大会」を新型コロナウイルス感染対策を実施の上開催しました。</p> <p>・北九州チャンピオンズカップ国際車いすバスケットボール大会(令和5年11月9日～12日開催) 大会入場者数 7,469人</p>	現状の課題・ 今後の見通し	○より効果的な普及促進を検討します。また効率的な実施を図っていきます。	障害福祉 企画課

## 「北九州市障害者計画」の基本的な施策の実施状況

番号	基本的な施策			所管課
6-(2)-6	2020年東京パラリンピックのレガシーイベント			
	東京2020パラリンピックのキャンプ地誘致やパラリンピック関連プログラムを契機とした国際交流を推進し、大会終了後も、レガシーとしてスポーツ・文化等の交流が継続・発展するような事業を展開します。 また、パラリンピアン等のトップアスリートの協力を得てスポーツイベントや講習会を開催し、障害のある人への理解及び障害者スポーツの振興を図ります。			
令和5年度 実施状況	実施なし	現状の課題・ 今後の見直し	○東京2020パラリンピックパのレガシーとして、引き続き、ホストタウン相手国である英国やドイツとの友好関係を継続し、障害のある人への理解及び障害者スポーツの振興を図ります。	都市ブランド創造局 スポーツ振興課
(3) 多様な生涯学習の充実				
地域との繋がりがづくりや社会への参加を促進するため、各ライフステージにおける学びを支援し、障害のある人の自己実現を目指す多様な生涯学習活動の充実を図ります。				
6-(3)-1	多様な学習活動を行う機会の提供と充実			
	障害のある人の生きがいづくりや社会参加に向け、障害のある人が生涯にわたり教育や文化、スポーツ等の様々な機会に親しむことができるよう、多様な学習活動を行う機会を提供・充実します。			
令和5年度 実施状況	○地域全体で心のバリアをなくし、相互理解を深めていくため、障害のある人や外国人住民と地域住民が共生した地域づくりを目指す市民講座を開催しました。(9館) ○家庭教育学級では、障害者への理解を深める学習会を行いました。(手話ダンス、車いすバスケットボールなど) ○市民センター館長研修等では、障害のある人となない人の共生社会の創出への学びを深める講義を行いました。(開催回数:1回)	現状の課題・ 今後の見直し	【課題】 地域において、障害のある人、外国人等を問わず、誰もが学びながら交流する学習機会を提供する工夫が必要です。 【今後の見直し】 引き続き、障害者をはじめ、多様性に応じた学習機会を提供するよう、市民センター館長研修等において周知していきます。	総務市民局 生涯学習課
6-(3)-2	障害のある子どもの芸術文化、スポーツに接する機会の確保			
	地域と学校の連携・協働の下、地域全体で子どもたちの成長を支え、障害のある子どもたちが、芸術文化、スポーツに取り組む機会を確保することにより、子どもたちの生きがいや生活の資質の向上につなげていくことができるようにします。 また、それらの活動を市民に発表する機会を積極的に作り、障害のある子どもに対する理解の促進と他者との交流の機会の確保につなげていきます。			
令和5年度 実施状況	○障害のある子どもたちが学校間や地域の方々と文化・芸術・スポーツに取り組む機会は、新型コロナウイルス感染症防止対策のため、小規模での開催となったが、体育や音楽などの授業やクラブ活動など各学校の可能な範囲内で、文化・芸術・スポーツに取り組む機会の確保に努めました。  ○取組に対する理解を一層推進するため、学校や家庭等への情報発信を充実しました。	現状の課題・ 今後の見直し	○障害者スポーツ大会や合同作品展など、障害のある子どもが、障害のない子どもや様々な年齢層の地域の方々と「交流及び共同学習」を通じて、文化・芸術・スポーツに取り組む機会の確保と障害のある子どもへの理解の促進を図っていきます。  ○市民に向けた理解・啓発を一層充実させるために、インターネットや広報誌等を活用し、取組の意義や活動の様子を具体的に発信していくように努めていきます。	教育委員会 特別支援教育課
6-(3)-3	市立図書館における読書環境の整備			
	市立図書館では、バリアフリーに対応した施設整備、郵送貸出制度、大活字本の閲覧貸出、特別支援学校での読み聞かせ等を実施するなど、障害のある人や子どもへの図書館サービスの向上に努めます。			
令和5年度 実施状況	○市立図書館では、バリアフリーに対応した施設整備、郵送貸出制度、大活字本の閲覧貸出、特別支援学校での読み聞かせ等を実施するなど、障害のある人への図書館サービスの向上に努めました。 ・郵送貸出制度登録者数 100人 ・大活字本所蔵数 約5,900冊 ・特別支援学校の図書館見学受入 14回 241人 ・特別支援学校の職場体験学習受入 10回 29人	現状の課題・ 今後の見直し	○支援が必要な方へ、サービスの情報が確実に届くような広報を行うことが課題です。  ○引き続き施設のバリアフリー化や、障害のある人への図書館サービスの向上を図るとともに、ホームページ等を活用したわかりやすい広報に努めて参ります。	教育委員会 中央図書館運営企画課、 奉仕課、 子ども図書館